

2023年 12月6日 (土) 12:30開場
13:30開演
大濠公園能楽堂

舞囃子	松風	塩津哲生
仕舞	田村	塩津希介
狂言	佐渡狐	野村万禄
能	山姥	塩津圭介

第12回 喜多流
塩津能の會
九州公演

Shiotatsu Noh
in
Kyushu



能の楽しみ方

能は室町時代に成立されたとされる歴史ある舞台演劇です。能のストーリーは人生の中の一瞬を切り出して、その瞬間を舞(動き)と謡(セリフ)と囃子(楽器)に乗ってゆっくりと物語が進んでいきます。その瞬間をじっくりと自分なりに解釈してみてください。不思議と時代を超えて私たちの人生の一コマとも繋がってくるのではないのでしょうか。見る人によって感想が異なる能の世界はまさしく芸術舞台です。もともと九州は、とても能楽の盛んな地でした。九州にルーツを置く、喜多流塩津家三代が、国内有数とも言える文化施設、福岡、大濠公園能楽堂にて、干支一周、12回目の塩津能の會を、ここに催します。

番組

番組										能	狂言	仕舞	舞囃子	おはなし 塩津圭介			
										山姥	佐渡狐	田村	松風				
シテ	ツレ	ワキ	間狂言	笛	小鼓	大鼓	太鼓	後見	地謡	シテ	アド	小アド	シテ	大鼓	小鼓	笛	シテ
塩津圭介	狩野祐一	有松遼一	上杉啓太	相原一彦	林大和	白坂保行	吉谷 潔	塩津哲生	佐々木多門	大村 定	狩野了一	金子敬一郎	栗谷充雄	大島輝久	工藤義彦		

山姥 Yamamba

都に、山姥の山廻りの曲舞をうまく演じたことから、百萬(ひゃくま)山姥という異名を取って人気を博していた遊女がいました。ある時、遊女は普光寺参詣を志し、従者とともに信濃国を目指して旅に出ます。上路山の難所にさしかかると、まだ日暮れ前というのに急にあたりが暗くなってしまいます。一同が困り果てているところに、やや年嵩の女が現れて一夜の宿を貸そうと申し出ました。庵に一同を案内した女は、真の山姥であることを明かし、自分を題材にして遊女が名声を得た山姥の曲舞を謡ってほしい、日を暮れさせて庵に連れてきたのもそのためだと訴えます。そして今宵の月の上がった夜半に謡ってくれるなら、真の姿を現して舞おうと告げて消えてしまいます。夜更けになって遊女らが舞曲を奏でつつ待っていると山姥が鬼女の姿(いばらのように乱れた白髪、星のように光る眼、鬼瓦のような朱色の顔)で現れます。日を暮れさせるほどの力を持ち、時に人間には見えない姿で山人の負う荷の手伝いをし、機織女の手業の手伝いをします。山姥の偉大な力、深山幽谷を巡り続ける孤独な境涯を語り舞い、仏法の深遠な哲理を説くうちに、山姥の姿はいずこかへ消えて見えなくなるのでした。

塩津圭介 Keisuke Shioten

1984年喜多流職分塩津哲生の長男として東京で生まれる。2008年東京学芸大学教育学部卒業。APU立命館アジア太平洋大学非常勤講師。若者へ能を広める活動として「若者能」を立ち上げ、毎年公演。福岡、熊本、札幌をはじめ、全国各地に稽古場を展開し、指導者としても活躍している。



チケット

正面特別指定席	10,000円(2列目~6列目)
正面(指定席)	7,000円
脇正面(指定席)	5,000円
中正面(指定席)	4,000円
桟敷席(自由席)	3,000円

オンラインチケット
申し込み

<https://kita-noh.com/schedule/18327/>
(クレジットカード決済・コンビニ購入受取が可能です。)

塩津能の會 オフィシャルサイトORコード



大濠公園能楽堂

福岡県福岡市中央区大濠公園 1-5
TEL 092-715-2155